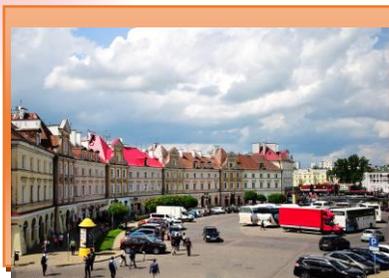


ファルマプランだより

5月27日～6月2日まで第27回 HPH 国際カンファレンスに参加してきました。今回はポーランドのワルシャワで開催され、テーマは『医療におけるハイテク（技術革新）とハイタッチ（十分なふれあい）：対話をすすめるためのデジタル化の課題と可能性』でした。どの国も高齢化社会を迎え医療費が膨れ上がる問題に直面しており、ヘルスプロモーション（健康づくり）に力を入れていることを実感しました。現代ではモバイル、SNSの普及により健康に悪影響を与えている事実もありますが、一方で、これらを活用した HPH の取り組みの報告がたくさん見られました。情報を探したり共有したりするにはとても便利なツールとなっています。しかし、モバイルは便利な反面コミュニケーションの取り扱い方には注意が必要と考えられます。顔が見る関係づくり（face to face）が大切であって、モバイルは1つの手段として利用目的を明確にして使用するべきと報告されていました。



あおぞら薬局では毎年患者満足度調査を実施しており、その要因分析を行った報告『ロジスティック回帰分析法を活用した保険薬局における患者満足度の要因分析』をポスター発表してきました。

今回は日本以外で保険薬局のポスター発表がなかったのが少し残念でした。



HPH（Health Promoting Hospitals & Health Services）とは地域の健康づくりに貢献する「健康増進活動拠点病院等」のことをいいます。現在、かかりつけ薬局や健康サポート薬局などでヘルスプロモーションの活動を実施している薬局は多いと思われます。地域の方々には喜ばれている活動を●実践し、発信していけるように努力が必要だと感じました。

来年は韓国で開催されます。法人で取り組んでいる様々な取り組みを発表したいと考えています。

あおぞら薬局 薬剤師 松村 直美

スポーツファーマシスト

天高く馬肥ゆる秋。真夏の酷暑も過ぎ去り、朝と晩には心地良い風が感じられるようになってきました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋と色々ありますが、みなさんはどのようにお過ごしでしょうか。今回は、来年に開催されるスポーツの祭典、東京オリンピックにちなんで、スポーツファーマシストという仕事について紹介します。

スポーツファーマシストって？

スポーツファーマシストとは、最新のアンチ・ドーピング規則に関する知識を有する薬剤師です。薬剤師の資格を有した者が、(公財)日本アンチ・ドーピング機構が定める所定の課程(アンチ・ドーピングに関する内容)修了後に認定されると、公認スポーツファーマシストとなることができます。2019年4月現在、全国で9530名のスポーツファーマシストが活躍しています。



ドーピングなんて実際にあるの？



ドーピングというと、あまり身近には感じられないかもしれませんが、実際にオリンピック種目の中で公式の検査を行うと、1,000人中20人から30人ほど陽性反応が出ています。また、意図的にドーピングを行っているアスリートは発見されない工夫をしているので、実態はそれより多いと考えられます。アスリートが100人いたらそのうち何人かは、結果的にドーピングとなっているのが、世界の実情です。

どうしてアンチ・ドーピング？

現在のところ、日本のアスリート界ではドーピングが問題となることはほとんどありません。しかし最近、医薬品のインターネット販売が非常に盛んになっており、個人輸入も容易になりました。さらに、日本に限らずいろいろな国が規制緩和をしているため、いわゆる処方薬にあたる薬物が一般薬として手に入り易くなりました。これらのことから、日本も禁止物質が含まれる薬を入手しやすい環境になりつつあります。実際、ドーピングに使われる代表的な薬剤、ステロイドによる陽性の例も出てきているので、このまま放置すると危険な状況になる可能性があります。

市販薬でもドーピング？

意図的なドーピングが問題であることはもちろん、病気の治療のために使用している医療用医薬品や、体調を崩してしまったときにたまたま服用した市販薬が原因でドーピングになってしまうなど、意図的ではない「うっかりドーピング」も近年問題視されています。トップアスリートの選手はサポートチームが充実していて、うっかりドーピングは起こりにくいですが、一般のアスリートには相談できる相手もなかなかいない状況です。薬局、薬店やドラッグストアなどで大会前やトレーニング時の薬物使用について気軽に相談できる相手として、スポーツファーマシストがいることにより、うっかりドーピングが減っていくことが期待できます。もちろんやみくもに「危ないから駄目」と言っていれば良いというものではありません。「この薬はこういう状況だったら大丈夫」とか「こういう状況になったら止めましょう」といったきめ細かいアドバイスまで期待されるでしょう。



スポーツファーマシストのこれから

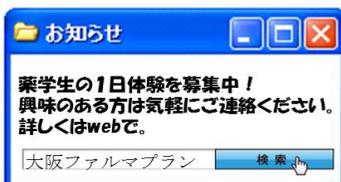
アスリートだけではなくありません。国はさまざまなスポーツ推進策を講じていますから、中高年の方が健康維持のためスポーツや運動をする機会はますます増えてくるでしょう。その中には、いろいろな病気で薬を常用している方が少なくありません。運動をすれば、当然血圧は上がり、脈拍も速くなるので、その場合の薬の作用・副作用についても十分な知識がなければ、適切なアドバイスはできません。医薬品の知識をベースとして、さらにスポーツと薬との関係を熟知している薬剤師、それがスポーツファーマシストです。

かがや薬局 向井 勝巳



薬剤師募集！！

新卒・既卒を問いません。
正職員・パート等相談に応じます。
詳しくはあおぞら薬局まで。



(一社) 大阪ファルマプラン 〒555-0024 大阪市西淀川区野里 3-6-8

あおぞら薬局(西淀川区野里)	06-6477-8080	http://www.faruma.co.jp/
そよかせ薬局(西淀川区姫島)	06-6475-4670	
すずらん薬局(西淀川区大和田)	06-6476-0121	
あおぞら薬局 淡路店(東淀川区西淡路)	06-6160-0025	
あおぞら薬局 三国店(淀川区西三国)	06-6394-3630	
もえぎ薬局(淀川区加島)	06-6886-4770	
すみれ薬局(大正区千島)	06-6556-3808	
なぎさ薬局(港区磯路)	06-4395-7600	
あおば薬局(吹田市南高浜町)	06-6318-3787	
かがや薬局(住之江区西加賀屋)	06-4702-3101	
なつめ薬局(住吉区沢之町)	06-6699-9977	
こつま薬局(西成区松)	06-6656-6007	
福祉用具レンタル介護ショップふあるま (西淀川区野里)	06-6477-8180	

発行年月日

2019年10月1日

